

日本産業広告賞受賞

日刊工業新聞社主催の日本産業広告賞において、当社製品「エコクリスタ」の広告が本年の新聞部門の第4部で第1席を受賞しました。「エコクリスタ」は半導体工場のウエハ洗浄に欠かせないフッ酸をリサイクルする製品で、資源を有効活用することにより環境負荷低減に貢献しています。



第64期中間報告書

平成20年4月1日～平成20年9月30日

証券コード：6368



Ecologically Clean

IRカレンダー (平成20年10月1日～平成21年9月30日) ※平成20年12月5日現在の予定です。

■第2四半期決算説明会 ■中間報告書発送

■決算説明会 ■招集通知発送
■決議通知・報告書発送



オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 経営企画部 TEL.03-5635-5111
ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



オルガノ株式会社

企業コンセプト

Ecologically Clean

企業理念

オルガノグループは
かけがえのない地球の未来を見つめ
“心”と“技”で水の価値を創造する

経営理念

- お客様にとって、最適な商品・技術・サービスを創造し、提供し続ける企業を目指す
- 株主様にとって、常に成長し、安定収益をあげる魅力的な企業を目指す
- 社員にとって、働き甲斐のあり、誇りの持てる企業を目指す

株主の皆様へ



代表取締役社長兼CEO

橋本喜代志

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。
ここに当社の第64期事業年度（平成20年度）中間期のご報告をさせていただきます。

1. 当第2四半期連結累計期間の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国の金融市場の混乱に端を発する世界的な景気減速の影響を受け、これまで産業界の堅調な業績を支えてきた輸出や設備投資の減速感が強まっており、個人消費の低迷と相まって景気の調整局面入りが明らかになっております。

当社グループを取り巻く市場環境は、主要顧客である電子産業・一般産業関連の設備投資の減少や設備稼働率の低下等の影響で受注競争がますます激化する中、資材価格の高止まりが続いており、非常に厳しい状況で推移しております。

このような状況のもと、当社グループは、第64期を「成長に向けた再チャレンジの年」と位置付け、顧客・地域密着を目指した営業部門の強化、省エネ・環境負荷低減技術の提案等による受注拡大、従来のメンテナンスサービ

スに留まらないソリューションビジネスの拡大、生産の効率化や新たな技術の開発を目指した技術部門・開発部門の強化・拡充に取り組んでまいりました。

しかしながら、設備投資の減少を背景に水処理装置の売上が減少したことに加え、設備稼働率が低下した影響によって、メンテナンスの売上が伸び悩んだこと、受注競争の激化に加え資材高騰の影響で大型案件の採算が悪化したことなどから当第2四半期連結累計期間は受注高398億円（前年同期比2.8%減）、売上高304億円（同12.8%減）、営業損失6億円、経常損失7億円、四半期純損失5億円となりました。

なお、当期の中間配当金につきましては、当第2四半期連結累計期間の実績を踏まえながらも通期の見通しを勘案し、前中間期と同じく1株当たり6円といたしました。

2. 通期の見通し

当第2四半期連結累計期間の結果を踏まえ、当社グループは総力を挙げて装置のコストダウンや原価管理の徹底、生産性の向上、固定費の削減等、各種の収益改善策に取り組んでまいります。しかしながら、世界的にさらなる景気の後退が見込まれる中、電子産業・一般産業とも設備投資の先行きが不透明であることから、通期の業績見通しにつきましては、受注高750億円（前年同期比2.6%減）、売上高720億円（同2.2%減）、営業利益25億円（同36.2%減）、経常利益25億円（同35.5%減）、当期純利益14億円（同43.1%減）を見込んでおります。

3. 今後の経営方針

当社グループは事業環境への柔軟な対応と顧客ニーズに応える品質・技術・サービス・コストの強化に取り組んでまいります。

短期の最重要課題として、生産性向上を目指した各種の収益改善策を断行し、損益分岐点の引き下げに取り組むとともに、中長期的な成長と競争力強化に向けた投資は着実に進め、本年6月の開発センターの集約及び11月のいわき工場の増設完了など、開発・技術・生産体制の強化を図っております。

設備投資の減速感が強まる一方で、地球規模での環境問題を背景とした省エネ・省資源へのニーズや、一連の食品問題等を背景に、食の安全性や健康に対するニーズが非常に高まっております。こうした環境や食品・健康にとって非常に関心の深い「水」に携わる当社グループにとって、ビジネスチャンスは大いに広がっているものと考えており、フッ素などの排水からの有価物回収技術や機能水装置などの普及拡大に加え、燃料電池用水処理装置や家庭用の衛生機器など新製品の開発にも注力しております。

当社グループは、長年に亘り我々の培ってきた技術の提供や、新たな製品の開発などを通じて市場での「存在感」を高めるとともに事業の拡大を図り、さらなる成長を目指してまいります。

4. 最後に

当第2四半期連結累計期間は誠に残念な結果に終わりましたが、当社グループにとって、当期が「成長に向けた再チャレンジの年」であることに変わりはありません。

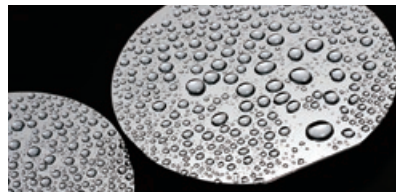
グループ社員一同、さらなる決意と覚悟をもって業績と企業価値の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましても、今後ともますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

平成20年12月

▶ プラント事業

電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄には超純水が用いられており、当社では超純水製造装置を日本のトップメーカーをはじめ海外メーカーへも納入しています。工場の大型化に合わせ、1時間あたり2,000m³という大流量への要求に応えると共に、環境へ配慮した排水を出さないクローズド化にも取り組んでいます。



一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプや繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業に対して目的に応じたプロセス用水を最も効率的に処理するシステムを提供しています。



電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力発電所向け水処理プラント。この分野で高いシェアを誇り、その技術力の高さを証明しています。米国原子力発電所向けに水処理装置を納入するなど国内のみならず海外市場にも取り組んでいます。



上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。その処理を担う浄水場では沈でんろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理など、下水処理場では生物処理などオルガノの得意な技術が活用されています。



医療薬品分野

安全性が特に重要視される医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度でバイロジェン（発熱性物質）を含まない、高い安全性を有する水をつくるシステムを提供します。



▶ ソリューション事業

メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

提案型サービス

既設水処理装置の設備診断とあわせて改善・改良提案を行います。また、薬品使用量や廃棄物の削減など、環境負荷低減に貢献する提案を行います。

水処理アウトソーシング受託事業

■ 包括メンテナンス

お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括受託することにより、安心して装置をお使いいただけます。



■ 処理水供給

お客様の工場内にオルガノが水処理装置を設置し、使用量に応じた処理水を供給します。お客様のニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

■ 遠隔監視

オルガノ本社内にある監視センターで、水処理装置の運転状況を遠隔監視し、警報通知を受け、早急な現場対応をバックアップします。装置の運転データから傾向変化を読み取り、予測監視により水処理プラントのトラブルを削減します。



■ 運転管理

ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の負担を軽減し、安定かつ効率的な運転を実現します。

▶ **機能商品事業**

標準製品

小型水処理装置は豊富なラインアップを有し、電子部品製造工場、食品工場、病院、研究所、レジャー施設まで広く用いられています。標準化による短納期・低コストの実現で、多くのお客様に好評をいただいています。

〈純水装置 SDAシリーズ〉



水処理薬品

冷却水処理剤・ボイラ処理剤・排水処理剤など水処理用の多様な薬品をラインアップ。装置と組み合わせたトータルシステムを提案し、安定運転を実現します。



食品加工材

健康志向の高まりを受け、より食品の付加価値が求められています。当社ではお客様の商品価値を高める品質改良剤、食品素材を食品メーカーへ提供しています。なかでも、保水効果の高いリン酸塩は国内で高いシェアを有しています。



オルガノ・コアコンピタンス

イオン交換樹脂 **アンバーライト**

当社の基幹材として、多くのお客様にご使用いただいているイオン交換樹脂「アンバーライト」は、世界有数の化学会社、米国ローム・アンド・ハース社の製品です。イオン交換樹脂は、大きさ0.5mm~1.0mm位の球状のプラスチック。この樹脂に通水することによって水中の不純物イオンを除去し、きれいな水（純水）を得ることができます。その昔イオン交換樹脂は、天然産の無機ゼオライトに対して有機ゼオライト（オルガニックゼオライト）、略名「オルガノライト」と呼ばれており、これが当社の社名「オルガノ」の由来です。



いわき工場第2工場棟完成

本年2月より建設を進めていた、いわき工場の第2工場棟が11月に完成しました。

この新棟完成により主力製品である大型水処理装置の生産能力が約2倍となり、超純水製造装置から排水処理装置まで各種水処理ユニットのより効率的な生産が可能となりました。生産能力の増強によって、資材在庫や標準型ユニット在庫による短納期化を推進し、お客様のニーズに合わせた納期に応えます。



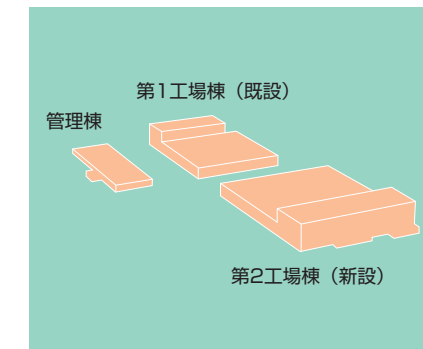
いわき工場概要



所在地：〒970-1144
福島県いわき市好間工業団地1番66

敷地面積：約82,600㎡

延床面積：第1工場棟（既設）	約5,900㎡
第2工場棟（新設）	約9,200㎡
管理棟（既設）	約2,000㎡



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 (平成20年9月30日現在)	前期末 (平成20年3月31日現在)	比較増減
資産の部			
流動資産	48,844	48,031	813
固定資産	30,683	29,675	1,007
有形固定資産	26,810	25,746	1,063
無形固定資産	511	554	△42
投資その他の資産	3,361	3,374	△13
資産合計	79,527	77,707	1,820
負債の部			
流動負債	35,846	32,531	3,314
固定負債	5,404	5,902	△498
負債合計	41,250	38,434	2,815
純資産の部			
株主資本	37,629	38,573	△943
資本金	8,225	8,225	-
資本剰余金	7,508	7,508	△0
利益剰余金	22,202	23,129	△926
自己株式	△306	△290	△15
評価・換算差額等	218	267	△49
少数株主持分	429	432	△2
純資産合計	38,277	39,272	△994
負債純資産合計	79,527	77,707	1,820

◆**流動資産**
現預金及び売掛債権の減少、仕掛品を中心としたたな卸資産の増加により813百万円増加しました。
◆**有形固定資産**
開発センター及びいわき工場の増設などにより1,063百万円増加しました。
◆**流動負債**
短期借入金の増加などにより3,314百万円増加しました。
◆**固定負債**
長期借入金の減少などにより498百万円減少しました。
◆**純資産の部**
四半期純損失の計上及び配当金の支払に伴う利益剰余金の減少などにより994百万円減少しました。

連結損益計算書(要旨)

当第2四半期(累計) (単位:百万円) 前第2四半期(累計)(参考) (単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	科目	前第2四半期(累計) (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)
売上高	30,495	売上高	34,984
売上原価	23,939	売上原価	25,893
売上総利益	6,556	売上総利益	9,091
販売費及び一般管理費	7,245	販売費及び一般管理費	7,092
営業損失(△)	△689	営業利益	1,998
営業外収益	99	営業外収益	125
営業外費用	136	営業外費用	145
経常損失(△)	△726	経常利益	1,978
特別利益	30	特別利益	11
特別損失	150	特別損失	58
税金等調整前四半期純損失(△)	△846	税金等調整前中間純利益	1,930
法人税等	△285	法人税等	832
少数株主利益	19	少数株主利益	73
四半期純損失(△)	△580	中間純利益	1,025

◆**売上高**
大型水処理装置を中心に、設備投資の減少・設備稼働率の低下等の影響に加え、電子産業案件において投資計画の延期が発生したことなどにより30,495百万円となりました。
◆**営業損失・経常損失**
設備投資の減少・設備稼働率の低下等による売上高の減少及び受注競争の激化による採算性の悪化、並びに資材価格の高止まりなどにより営業損失689百万円、経常損失726百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

当第2四半期(累計) (単位:百万円) 前第2四半期(累計)(参考) (単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	科目	前第2四半期(累計) (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,863	営業活動によるキャッシュ・フロー	1,594
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,601	投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,146
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,896	財務活動によるキャッシュ・フロー	△839
現金及び現金同等物に係る換算差額	△14	現金及び現金同等物に係る換算差額	22
現金及び現金同等物の減少額	△2,582	現金及び現金同等物の減少額	△368
現金及び現金同等物の期首残高	7,781	現金及び現金同等物の期首残高	5,237
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,199	現金及び現金同等物の中間期末残高	4,869

◆**営業活動によるキャッシュ・フロー**
1,863百万円の資金流出となりました。主な資金の増加は売上債権の減少によるものであり、主な支出は税金等調整前四半期純損失及びたな卸資産の増加によるものです。
◆**投資活動によるキャッシュ・フロー**
3,601百万円の資金流出となりました。主な支出は有形固定資産の取得によるものです。
◆**財務活動によるキャッシュ・フロー**
2,896百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は借入金の増加によるものであり、主な支出は配当金の支払によるものです。
当第2四半期末の現金及び現金同等物は前期末と比べて2,582百万円減少し、5,199百万円となりました。

セグメント別業績

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前 期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
■ 受注高			
水処理装置事業	31,233	33,639	61,836
薬品事業	8,641	7,403	15,138
■ 売上高			
水処理装置事業	22,342	27,383	58,172
薬品事業	8,153	7,600	15,420
■ 営業利益又は営業損失(△)			
水処理装置事業	△1,225	1,550	2,748
薬品事業	536	447	1,167

【**水処理装置事業**】
当事業は、電子産業関連の大型プロジェクトへの対応とともに、一般産業分野・ソリューションビジネスの拡大に取り組んでまいりました。当第2四半期連結累計期間は、液晶関連の大型案件の受注に成功いたしました。電子産業の案件で計画の延期が発生するなど、電子産業・一般産業とも設備投資の抑制や設備稼働率の低下が見られ、大型水処理装置・ソリューション・標準製品ともに売上は減少いたしました。利益面につきましては、受注競争の激化に伴う採算の悪化や資材価格の高止まりの影響などにより大型水処理装置の利益率が低下いたしました。この結果、受注高31,233百万円、売上高22,342百万円、営業損失1,225百万円となりました。

【**薬品事業**】
当事業は、メンテナンスを中心にイオン交換樹脂・水処理薬品の売上拡大に取り組んでまいりました。当第2四半期連結累計期間は設備稼働率の低下などを背景に製品の種類によって若干の伸び悩みは見られましたが、全体的には比較的堅調に推移した結果、受注高8,641百万円、売上高8,153百万円、営業利益536百万円となりました。

注1) 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」を適用しております。従いまして、当年四半期連結財務諸表と前年四半期連結財務諸表とでは、作成基準が異なるため前年比較に関する情報は参考として記載しております。

注2) 本報告書は決算短信の数値、文章を基に作成しております。その後公表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては当社ホームページの掲載資料などにご確認ください。

会社概要

商号 オルガノ株式会社 (英文 ORGANO CORPORATION)
 創業 昭和21年5月1日
 資本金 8,225,499,312円
 従業員数 674名 (連結 1,668名)
 主要な事業内容 当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品類の製造、販売を主な事業としております。

主要な事業所

本社 〒136-8631
 東京都江東区新砂1丁目2番8号
 開発センター 相模原
 工場 つくば、いわき、幸手
 事業所 周南
 支店 北海道、東北、中部、関西、中国、九州、台湾

主要なグループ会社

■ 連結対象子会社

(国内) オルガノ北海道(株) (海外) Organo (Asia) Sdn.Bhd.
 オルガノ東北(株) オルガノ(蘇州)水処理有限公司
 オルガノ東京(株) オルガノ(上海)水処理有限公司
 オルガノ中部(株) オルガノ(香港)水処理有限公司
 オルガノ関西(株) オルガノ(タイ)水処理有限公司
 オルガノ九州(株) オルガノ(シンガポール)水処理有限公司
 オルガノプラントサービス(株)
 オルガノダニスコフードテクノ(株)
 オルガノアクティ(株)

取締役・監査役・執行役員

取締役会長	傳田正彦
取締役社長兼CEO	橋本喜代志
取締役	田代圓
取締役兼常務執行役員	近藤昭夫
取締役兼常務執行役員	田中康彦
取締役兼常務執行役員	鬼頭和夫
取締役兼常務執行役員	飯塚廣
取締役兼執行役員	中村聖和
常勤監査役	太期敏之
常勤監査役	小柴勲
監査役	川村克彦
監査役	吉田正俊
執行役員	飯泉俊一
執行役員	小暮茂隆
執行役員	毛利隆雄
執行役員	峯下幹雄
執行役員	浦井紀久
執行役員	渡辺大輔
執行役員	伊藤智章

(注1) 傳田正彦及び橋本喜代志の両氏は代表取締役であります。
 (注2) 川村克彦及び吉田正俊の両氏は社外監査役であります。

■ その他グループ会社

(国内) オルガノ山下薬品(株) (海外) Organo (Singapore) Pte Ltd
 オルガノ・ハイテック(有) Organo (Thailand) Co., Ltd.
 環境テクノ(株)
 東北電機鉄工(株)

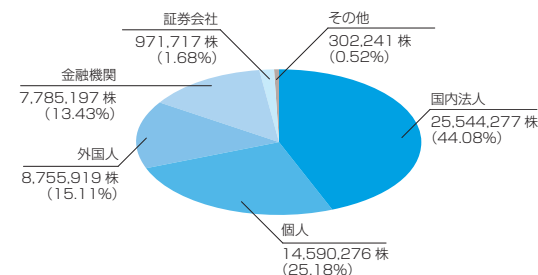
株式の状況

● 発行可能株式総数 126,960,000 株
 ● 発行済株式総数 57,949,627 株
 ● 株主総数 8,493 名

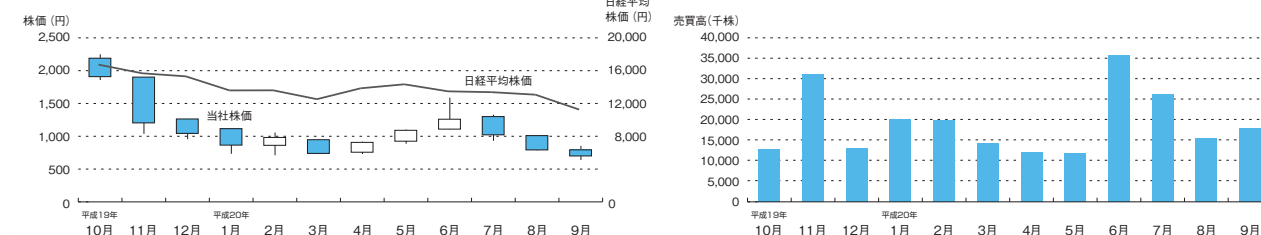
● 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.20
ピクテ アンド シー ヨーロッパ エスエー	2,463	4.25
株式会社みずほ銀行	1,773	3.06
ザバンク オブ ニューヨーク・ジャスディック トリーティー アカウント	1,368	2.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	893	1.54
みずほ信託銀行株式会社	775	1.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	681	1.17
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	672	1.15
リーマン ブラザーズ インターナショナル(ヨーロッパ)	583	1.00
ドイチェ バンク アーゲー ロンドン 610	578	0.99

● 所有者別株式分布状況



● 株価及び売買高の推移



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
 単元株式数 1,000株
 公告掲載方法 電子公告
 公告掲載アドレス <http://www.organo.co.jp/>
 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
 中央三井信託銀行株式会社
 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
 電話0120-78-2031 (フリーダイヤル)
 同取次窓口 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

(ご注意) 株券電子化後、株主様の各種手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくことになります。なお、未受領の配当金のお支払につきましては、引き続き株主名簿管理人である中央三井信託銀行の全国各支店でお取り扱いいたします。

株式に関する手続き用紙のご請求について

住所変更、単元未満株式買取請求、配当金振込指定等に必要各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルならびにホームページをご利用ください。なお、株券電子化実施後は特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますのでご注意ください。

◆フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内)
 ◆ホームページアドレス http://www.chuomitsuui.co.jp/person/p_06.html

単元未満株式買取請求に必要な用紙につきましては、株主名簿管理人のホームページ又は窓口にて承ります。

※保管振替制度をご利用の場合は、お取引のある証券会社にお申し出ください。